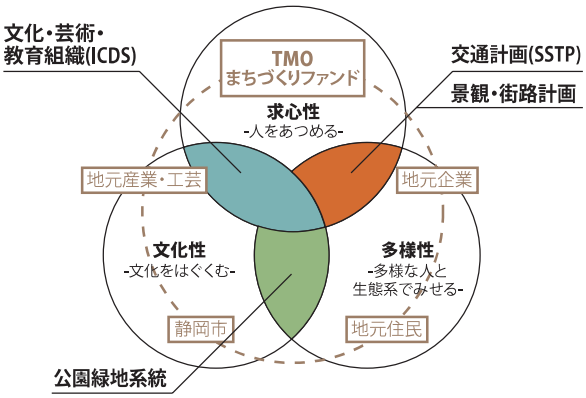
史的文化磁場の再生

- 芸・緑・道が織りなす回遊劇場 -

本提案では静岡市、とりわけ七間町周辺の歴史的文化に着目し、寄席から映画館、そして近年の大道芸へと繋がっていった大衆芸術文化の現代的解釈を提案の軸とした。さらに交通ネットワーク、公園緑地系統、街路・景観計画の整備によって、対象地区が静岡駅周辺、さらに市街地をかこむ自然資源と呼応するような独自の文化的磁場を獲得することを目標とした。
なお、本提案は上位組織による一斉整備ではなく、地元住民の理解と参加を得ながら、漸進的に進めるという点も重要な前提である。



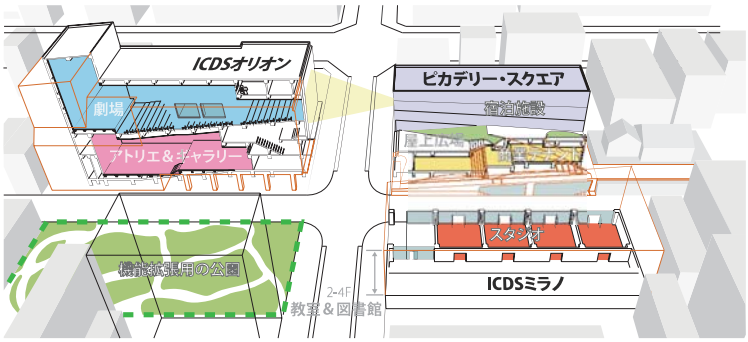
●「デザイン」によって街を育てる
-ICDS (Institute of Cultural Design Shizuoka)

対象地区が歴史的に継承してきた大衆芸術文化を、ひろい意味での「デザイン」という言葉で捉え直す。そのうえで、「デザイン」を軸とした新しい文化・芸術・教育組織ICDSを提案する。
ICDSは以下のプログラムから成り、市民や行政、地元産業など多主体との連携によって効力を発揮する。

1. 教育・研究プログラム
   a: ワークショップ
   b: レクチャー
   c: リサーチ・プロジェクト
2. アーティスト・イン・レジデンス・プログラム

またICDSは映画館跡地を本拠地とするが、街と組織の成熟にしたがって、活動の場をまちなかへと拡張していく。

1. ICDSオリオン（劇場、アトリエ、ギャラリー）
2. ICDSミラノ（教室、スタジオ、図書館）
3. ピカデリー・スクエア（広場、宿泊施設、商業テナント施設）
4. 公園、空家（ワークショップや環境学習、その他もろもろの活動の基盤）



映画館跡地におけるICDS施設構成

● 人の流れを再編する
-SSTP (Shizuoka Shareing Transportation Planning)

交通ネットワークの整備に関して、SSTPという概念を提案する。SSTPは以下の五つの事業から成る。

1. トランジットモールの実施（複合交通拠点「七ブラクロッシング」）
2. 公共交通システムの整備（電子マネー「Shizuca」）
3. 自転車関連設備の整備（自転車専用レーン、駐輪場）
4. コミュニティサイクルの整備
5. ベロタクシーの整備

これらはSPTC(Shizuoka Public Transportation Combination)と呼ばれる行政・企業連合体によって行われる。

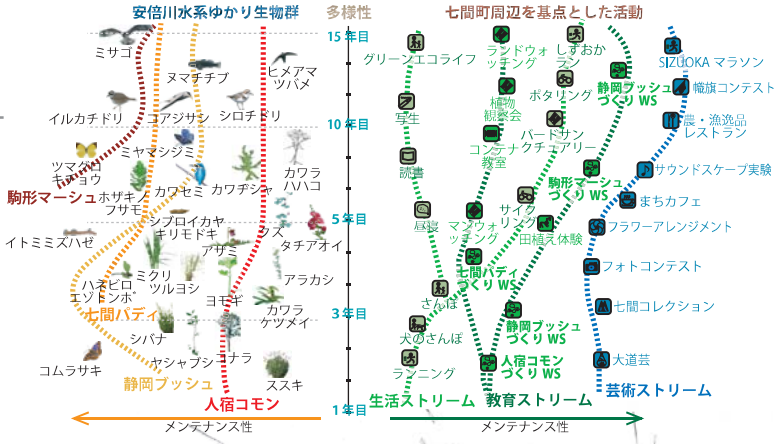
対象地区内に整備する複合交通拠点「七ブラクロッシング」

● 人、生態系、街の歴史を緑でつなげる
- 公園緑地系統

静岡市は浅間神社や駿府公園、安倍川など、豊かな緑地と生態系に囲まれている。こうしたマクロな自然資源を対象地区に引きこみ、ネットワーク化する。具体的には、交通計画によって不要となった駐車場を漸進的に用途転換し、以下の異なる性質（生態系や利用者の活動など）を持った四種の公園を整備する。

・七間パディ（農業的体験の場となる公園）
・人宿コモン（都会的でありながら土を感じられる広場）
・駒形マーシュ（環境学習に適した湿地）
・静岡ブッシュ（生態系豊かな雑木林）

これらはICDSを中心とするワークショップによってつくられ、静岡市公園緑地協会（提案）によって他主体との連携のもと、管理される。

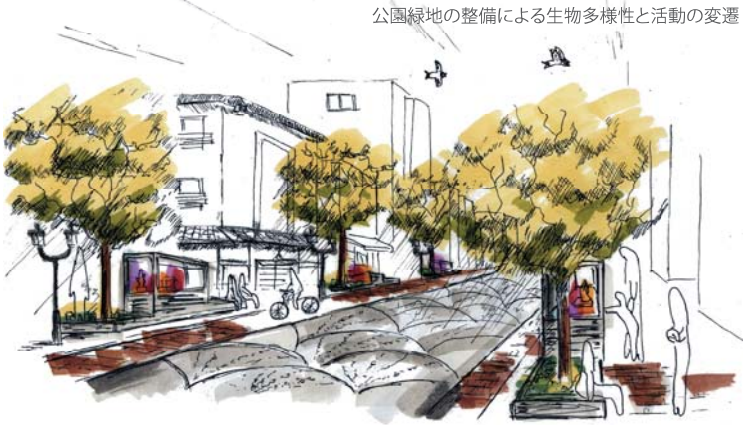


公園緑地の整備による生物多様性と活動の変遷

● 豊かなまちなみで魅せる
- 景観・街路整備計画

七間町通りは交差点を挟んで北側と南側で街路デザインが異なる。この相違が、北側からの歩行者を交差点で止めてしまう一因であると考える。そこで本提案では以下の要素によって通りの南北をつなげることで、対象地区の背骨である七間町通りを魅力ある歩行空間として再生する。

・舗装（歩道および車道。北側で用いられているもの）
・街路樹（市木であるハナミズキと、景観的相性の良いクリスマスローズ）
・ストリート・ファニチュア（椅子や展示スペースが一体となったもの）
・サウンドスケープ（旧市鳥であるヒメアマツバメの鳴声など）



街路樹とストリート・ファニチュアによる七間町通りの一体感